

## 【新潟税務署長賞】

### 「税金に感謝と期待」

新潟県立

新潟商業高等学校

三年 高松 栞里

私は小学生の頃から近所にある児童館でよく遊んでいた。その児童館では、トランプやオセロなど座って遊ぶおもちゃから、バドミントンやバスケットボールなど体を動かせる遊戯室やコートがあり、子どもにとって十分な環境が整っていた。さらに、そこにいるスタッフの方々は優しく、面白くていつも私達とたくさん遊んでくれた。私が小学生の頃、いつも通り児童館で遊んでいた時、ふと疑問が生まれた。私達は毎回、お金を払うことなく遊んでいる。スタッフの方々のお給料はどこから発生しているのだろうか、と。だが、この頃の私は、きつとボランティアでやってきているのだろうかとあまり深く考えてはいなかった。

それから何年か経ち、高校生になった私は税金が身近な所では何に使われているのだろうかと考えた時に真っ先に、この児童館が頭に浮かんだ。そこで児童館について調べてみたところ、やはり税金が運営費用として使われていた。ここ数年で公設民営の児童館も何割か増えてきている。しかし、公設公営の児童館が半数以上を占めており、令和三年度の調査では五十一、九パーセントが公設公営だということが分かった。また、公設民営の児童館であっても、費用の三分の二は市や県が負担している。つまり、児童館の運営には多くの税金が

使われているということだ。

しかし、少子高齢化が進む日本は、もっと子どものために税金を使っても良いのではないだろうか。子どもが生まれた時に安心して預けられる施設があったり、安全に子ども達が遊べる施設が地域にあることはとても大切なことだと思う。子どもが減少し、子どものための施設を運営することが難しいという現状もあるだろうが、ここで耐えなければ生まれてきた子どもやその親に負担がかかることも容易に想像できる。だからどうか子どもとその親のために、税金を使ってもらいたい。私は児童館でたくさんさんの思い出を作り、様々な経験をさせてもらった。そのおかげで私はとても成長できたと思う。特に幼児から高校生、また大人のスタッフの方まで、幅広い年齢層が集まり空間を共にしていたので人間関係を築く上で多くの学びを得たと思う。今、私は児童館が身近にあったことにとっても感謝している。だからこそ、これから生まれてくる子ども達にも児童館のような施設で気軽に遊べる環境があって欲しい。

また、日本は税金の使い道が不透明だという問題がある。その問題解消のためにも、子どもが利用する施設が税金によって支えられていることをもっとアピールしても良いのではないかと思った。そうすることで子ども達が幼い頃から税金に親近感や興味を持ち、大人になった時に、より納税に対する理解が深められると思う。税金に対する理解を多く得ることで、税金の使い道がさらに良くなるのではないだろうか。